

## 〈令和4年度東京都立大島高等学校 全日制課程 学校経営報告〉

学校名 東京都立大島高等学校  
 校長名 佐々木 一憲

令和5年3月31日

### 1 取組についての報告と評価

#### (1) 教育活動への取組と達成状況

≪教育目標≫ 五訓に基づき、郷土を敬愛し、自己の尊厳を覚り、真理を究明し、誠実をもって事を達成し、常に健康かつ明朗で勤労を貴ぶ人材を育成する。 ○誠実 Sincerity    ○敬愛 Respect    ○勇気 Courage    ○自尊 Self-esteem    ○自主 Independence ≪教育目標を達成する活動内容≫ ○ 誠実で豊かな人間性をもつ知・徳・体の調和のとれた人間を育成する。 ○ 郷土を愛し、誇りをもってその良さを世界に発信できる人間を育成する。 ○ 勇気と行動力をもって困難に立ち向かうことのできる逞しい人間を育成する。 ○ 自己を信じ何事にも前向きに取り組むことのできる人間を育成する。 ○ 自ら考え判断し行動できる自主性と創造力をもった自立した人間を育成する。 ○ 教職員の絶え間ない研鑽と組織的・継続的な教育活動を推進する。
--

#### ≪今年度の数値目標の達成状況≫

目 標 内 容	数 値 目 標	達 成 状 況
入学満足度 生徒・保護者	85%以上 (3年度生徒94%、保護者97%)	生徒97%、保護者80%
学力向上の取組への満足度	肯定的評価85%以上 (2年度生徒70%、保護者86%)	生徒86%、保護者83%
第3学年の希望進路決定率	100% (3年度実績98%)	87% (大学・短大14名、専門学校10名、就職等12名、その他6名)
国公立大現役合格	1名 (3年度実績2名)	0名
講習・補習の充実	30講座240時間以上 (3年度15講座85時間)	66講座381時間
資格検定試験の積極的な取組	全生徒の延べ80%以上 (3年度108%)	109名中延べ87%
2級以上取得者	10名 (3年度8名)	5名
教職員研修	4回以上 (2年度5回)	6回 (特別支援教育、ICT、コンプライアンス、体罰防止、服務事故防止、入学選抜)
出席状況に課題のある生徒割合	2%以内 (3年度1.6%)	1.8%
部活動加入率	87% (2年度87%)	96%
出前授業、公開授業、交流事業	26回以上 (3年度20回)	21回
国際理解教育の推進	2回以上 (3年度4回)	文化プログラム行事1回、国際理解講演会2回、ハワイ州の高校との交流2回

(2) 取組状況と自己評価（4段階 高4～低1）

ア 学習指導：基礎学力の定着と進路に応じた発展的な学力向上を図る

【 3 】

- ① 生徒による授業評価を実施し、結果を各教員にフィードバックし授業改善を実施した。
- ② 主体的・対話的で深い学びを目指す授業を、総ての教員が積極的に取り入れて実践、グループワークを適切な時間とタイミングで実施することが課題である。
- ③ 50分授業を大切に、チャイムと同時に授業が展開できる態勢を継続した。
- ④ 相互授業参観を年間通じて実施したが、一人2回以上の達成はできなかった。若手研修並びに自主的な授業公開・参観は校内に浸透している。
- ⑤ 一人一台端末の活用のためのICT機器の研鑽を定期的実施、授業時の有効活用、生徒への連絡、修学旅行に向けての活用も進んでいる。校務支援システムへの移行と活用が課題である。
- ⑥ 教員の勤務時間を割り振り、放課後の自習室の体制を整え、進学者に対応した。加えて卒業生によるオンラインチューターの指導助言を取り入れた。
- ⑦ 言語能力の充実に向け、各教科で授業を通じて取り組んだ。文章を書かせる取り組みについては、教員が進路指導対策として研修を受講した。産業教育振興会作文コンクール等に応募させ1名入賞した。

イ 進路指導：生徒の自己理解を進め希望する進路実現を支援する

【 3 】

- ① 進路部と学年との連携を図り、進路指導の情報共有・資料提供を行い、就職塾を毎週実施。学校評価アンケートでは「進路情報を提供し進路実現の指導をしている」の質問に対して、全ての生徒が肯定的な回答をしているのに対し、保護者の回答は78%であった。保護者に伝える指導が課題である。
- ② 検定・資格取得試験等の実施については、漢字検定には2級2名・準2級2名、英語検定には2級3名・準2級6名・3級3名が合格、日本農業技術検定には2級1名、3級4名が合格、アグリマイスターゴールド1名、FFJ検定上級1名、家庭技術検定（調理及び被服）3級に4名が合格、商業系検定には延べ38名が合格した。
- ③ 生徒の学力の定期的な把握を行い、それをもとに面接指導を実施した。
- ④ 平日や長期休業中の講習・補講を必要な生徒に実施した。模擬試験、検定等は週休日を中心に実施。
- ⑤ 進路実現に関して進路指導部を中心とした指導の体制確立を今後も継続する。面接の指導は学校を挙げて手厚く行い進路実現に当たって効果を上げた。

ウ 生活指導：生徒との人間関係づくりを基本に体罰0、人権尊重、健全育成の指導体制を推進する

【 3 】

- ① 落ち着いた学習環境の確立やルールやマナーの遵守等、規範意識の醸成につなげる指導を継続的に行った。
- ② 教育相談機能の強化、特別支援委員会の定例開催し対象生徒を教育相談に繋げ、個別の支援を行った。
- ③ いじめに関するアンケート、体罰防止アンケートを全員に実施し、生徒の返信に応じていじめに対する理解が深化するよう適切な対応を行い、健全育成、安全、安心、健康保持を図った。
- ④ 時間厳守、あいさつ・遅刻などに対して組織的な指導を実施した。朝の健康チェックの機会を利用して、身だしなみの指導を継続した。
- ⑤ 生徒会で生徒心得見直しと制服に関する話し合いを実施し、標準服試行期間を1週間設けアンケート調査を行った。
- ⑥ 特別活動、学校行事については、感染症拡大以前の形に近い形で実施することができた。3年ぶりの2年生修学旅行、3年生の宿泊を伴う校外学を実施した。

エ 健康・安全・防災：教育相談体制を整備する

【 4 】

- ① 学校保健計画に基づく定期健康診断、教育相談、第1学年生徒のスクールカウンセラーとの全員面接を実施することができた。相談指導の周知、保健だよりの定期的な配布により、保護者に対しても適宜情報発信を実施できた。
- ② 学校保健計画に基づく学校保健活動を実施した。保健委員会の活動の活性化を図った。保健計画に基づき柔軟に保健活動を実施し、未然に感染症の拡大、その他の疾病の流行を防いだ。
- ③ 平成25年の土砂災害より防災意識の向上や避難行動の確認等を目的と土砂災害を想定した避難行動訓練を計画段階から教員を派遣し大島町と合同で実施。生徒による防災の発表、避難所設置を行った。
- ④ 感染予防等による保健衛生意識を高め、安全・安心して生活できる環境づくりを進めた。徹底した予防指導と日常的に衛生意識の醸成に努めた。また、スマートフォンを利用した健康確認を感染症予防

対策として今後も継続する。

#### オ 広報活動、国際理解教育、東京2020レガシーの推進

【 4 】

- ① 学校広報誌「農林科通信」「家政科通信」を発行し、広報「おおしま」、地元メディア、新聞に情報提供して本校のPR活動に努めた。校外における学習活動をコロナ前に戻すように心掛け実施することができ、農林科や家政科の活動について認知度が高まった。
- ② 都立大島公園や関係諸機関と連携し、本校の「国際優秀つばき園」を活用した教育活動・広報活動の充実に努めた。椿祭り中に園の公開をし、生徒による椿ガイドを実施できた。
- ③ 保育園、小中学校との交流授業、出前授業、大島町教育研究会への参加に努めた。また、町立中学校の生徒を本校に招待し、授業、併合科の実習の見学会を実施、入学する生徒の確保に努め、島内生徒89%の入学見込者の確保ができた。
- ④ 農業高校収穫祭(11月)に参加し、レストランとの食材提供によりコラボレーション、生製品の販売を行い、お客様の投票によるお客様賞を受賞した。
- ⑤ プロの楽団の来校「文化プログラム」(6月)、国際理解講演会(7月)、オリンピック選手の来校・交流(レスリング8月、バレーボール8月)、警視庁音楽隊の来校・演奏(1月)などを実施した。その他、地域理解のためフィールドワーク、玉川大学芸術学部によるワークショップにより表現力、協調性を高めることができた。
- ⑥ 海外学校間交流推進校、国際交流リーディング校として、7月及び1月にハワイ州のヒロ高等学校との交流をオンラインで実施、10月には教員をヒロ高校に派遣し、姉妹校締結のための視察を行った。3月にはヒロ高校の教員、生徒が来校し交流を深めた。

## 2 次年度学校経営への評価の観点と改善策

### (1) 学力・授業力向上

【評価】主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善。授業評価アンケートによる授業改善の取組。一人一台端末の授業での有効活用。学校評価アンケートより、「学校は学力向上に取り組んでいる」の質問に対し、生徒は86%、保護者は83%が肯定的回答であった。

【改善策】生徒の学力向上についての取組を求める評価結果に基づき、マークシート受験となる入学生徒の学力分析、基礎学力定着・受験指導との両立を図る主体的な深い学びが可能な授業の工夫。授業評価アンケートの継続。今後、大島町小中学校との連携が予想される校務支援システムの有効活用。

### (2) 進路指導・キャリア教育の充実と生徒の進路実現

【評価】生徒自身の目標を見通した3年間を見通した進路指導の実施とキャリア教育の実践。進路情報の継続的提供。生徒100%、保護者78%の回答

【改善策】学年、進路部の連携強化。学習状況・進路希望状況の生徒情報の共有と、三者・二者面談に基づく計画的な指導を継続。保護者に向けての情報提供を強化する。進路講習の継続。

### (3) 生活指導・健全育成

【評価】個と状況に応じた丁寧な生活指導、折れない心(レジリエンス)をもった生徒の育成を目指した教育相談体制の確立。

【改善策】特別支援委員会の定例化継続。教育相談に繋げる組織的指導の実施。個人情報管理徹底の継続。スクールカウンセラー・学校サポートチーム等の更なる活用。

### (4) 特別支援教育の組織的な取り組み、義務教育(特別・通級学級)との連携、接続した指導。

【評価】諸機関との連携、生徒の状況把握に基づいた実践。

【改善策】特別支援委員会の定例化継続。教育相談に繋げる組織的指導の実施。スクールカウンセラー・発達心理士、中野特別支援学校等関係機関の更なる連携と活用。

### (5) 広報活動の取組

【評価】学校ホームページ、SNSの更新回数の増加、大島町広報の活用。

【改善策】適切な写真を用いた効果的な情報発信の実践。リニューアルしたホームページとSNSの効果的な使い分け、分かりやすい表示。新聞、メディアへの広報活動。